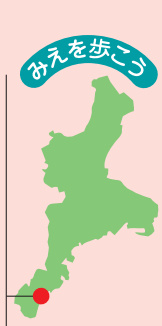

みえを歩こう

情緒ある町並みが時代の移ろいを物語る

熊野市 木本町本町通り界隈

JR「熊野市」駅周辺に広がる木本町は、江戸時代初期の慶長検地帳に「鬼ノ本浦」と記されています。道が狭く入り組んでいた木本を、紀州藩が町割り整備につとめ、奥熊野代官所を置いて支配しました。奥熊野は和歌山県南部と三重県南部に広がる地域。木本には脇の浜という船着き場もあり、交通の要衝として人々が行き交い、行政や経済、文化の中心地として発展しました。その町割りは今もほとんど変わらず、市街地でありながら古い情緒が漂います。そんな町並みを駅前で書店を営む西 一夫さんに案内していただきました。

周辺には世界遺産の熊野古道松本峠や鬼ヶ城、獅子岩など熊野の名所も点在し、七里御浜に沿って国道が走り、海、山、まちの魅力が一度に味わえる地域となっています。

取材・文…中村 元美

案内人は「木本探検倶楽部」の西 一夫さん。熊野古道の世界遺産登録を機に、町の歴史や文化を勉強しようと会を発足し、ガイド活動も行う。「西書店」店主。

■ 行程図　所要時間／約2時間 ※所要時間は、おおよその目安です。

START JR「熊野市」駅 →約600m→ 「熊野古道おもてなし館」 →約50m→ 「丸田商店」（旧木本町役場） →約50m→ 「中野陶器店」 →約100m→ 「旧酒甚旅館」 →約150m→ 木本神社 →約200m→ 笛吹橋 →約250m→ 松葉山天満宮 →約600m→ 「奥熊野代官所跡」 →約500m→ JR「熊野市」駅

要害山が町の境目

今回の散策の起点、JR「熊野市」駅から海側へ向かってしばらく歩くと、右側に熊野市役所、その向かいに要害山が見えてきます。岩肌が印象的なこの山は独立峰に見えますが、元々は北から南に繋がる山の支尾根です。要害山の西が井戸町で、東が木本町です。「1500年代に有馬氏が築いた鬼ヶ城の出張所として、この山にも城がありましたが、砦のようなものだったのでしょう。木本を取り巻くように山の頂に城があり、集落を守っていました」と西さん。そんな狭い土地であった木本は、要害山の北西側を削り取る工事が行われ、鉄道が通り、町の行き来も容易になったようです。頂上の城跡は景色の良い木本公園となっていて、遊歩道で登ることもできます。

木本と井戸の境を進み、旧街道とクロスする辺りに馬留という字名が残ります。紀州藩の殿様が井戸川を越えて来た時に、馬を下りる目印だったと伝わります。稲倉稲荷神社、海に出ると南に獅子岩が見えますが、コースは東の木本側、旧街道の本町通りへと進みます。

木本と井戸の境となる要害山

「熊野古道おもてなし館」

旧栃尾邸の蔵の地下

伝統的な建物が残る本町通り

通りには谷川邸や脇本邸など格子戸や犬矢来を持つ和風建築が多く、商人の屋敷が残されています。虫籠窓が目を引く「熊野古道おもてなし館」も、そんな建物の一つです。同館は築130年以上になる建物を改装し、休憩所としてオープンしていますが、元は廻船問屋や林業経営で財を築いた旧栃尾邸です。母屋の両脇には延焼被害を食い止めるための防火帯があり、格式高い奥の間には付書院や違い棚など趣向が凝らされています。母屋を出ると中庭と蔵が2つ。大きな蔵には海側と山側の2か所に出入口があり、脇の浜から伝搬船で商品を運び入れました。蔵の床板を外すと薬品などを保管した地下室もあります。柱や梁も存在感があり、伝統的な町家の様式に配慮して古民家を再生しています。

「熊野古道おもてなし館」の向かいにある福嶋邸を西さんの声掛けで中を見

学しました。入り口に落とし戸の細工があります。いわゆる木製のシャッターで、10年ほど前に改装した際に、この様式を残したそうです。本町通りの趣を伝えていきたいという思いが息づいています。

近くの「西衣料品店」は元銀行で半円の窓枠がお洒落な造り。瀟洒な近代建築もこの通りの魅力で、レトロな看板の「加田捨銃砲火薬店」を眺めて進むと、ザルや鍋などの日用雑器が並ぶ**「丸田商店」**です。ここは旧木本町役場で、白亜の木造二階建て。横板の壁が珍しく、明治39(1906)年の棟木が保管されています。

まちかど博物館の**「中野陶器店」**、元警察の熊野商工会議所、交差点の角の「さいとう呉服店」を過ぎると、**「旧酒甚旅館」**です。明治年間の開業で、巡礼者や旅人にも利用され、作家の宇野千代や片山元総理も訪れたようです。宿としての営業は終えましたが、風格が漂っています。

落とし戸のある福嶋邸

「丸田商店」

「中野陶器店」

「旧酒甚旅館」

棟木

風情漂う〝ひまい道〟へ

右折して路地を抜けると左に鳥居が見えてきました。氏神の**木本神社**で、10月には〝暴れ神輿〟の異名をもつ例大祭が行われます。木本町の各地区から山車が出て、神輿のお供をしながら町内を練り歩き、子どもたちが白塗りに隈取の化粧をする六方行列も賑やかです。鳥居横には吉田庄太夫を祀る吉田大明神石碑があります。安政2(1855)年、徳川御三家の紀州藩直轄から、新宮城主・水野氏に知行替えが公布されると、税が重くなることを恐れた木本側で反対騒動が起こりました。「安政の村替え騒動」です。一揆を防ぐため藩士の吉田庄太夫が出向いて説得にあたるも、長く仕えた殿様の交替は忍びないと木本側は納得せず、ついに庄太夫が独断で中止を決めました。それを称えた石碑です」と西さん。

庇の低い家屋が並ぶ親地町を抜け、西郷川に出ました。**笛吹橋**の欄干に笛がデザインされていますが、これは鬼ヶ城の多娥丸を退治した将軍・坂上田村麻呂が笛を吹きながら行進したという伝説が元になっています。熊野古道松本峠への登り口を過ぎ、臥牛が奉納された**松葉山天満宮**へお参りし、駅方面へ戻ります。

立派な石積みの邸宅に沿って歩くと、線路側に標高102メートルの華城山が見えました。5月の節句には頂上のポールに鯉のぼりが泳ぐことで知られています。左折し、「紀南ツアーデザインセンター」(現在休館中)の前を進み、細い路地〝ひまい道〟へと入ります。古い壁や石積みの塀が続き風情があり、足元は今では暗渠となっていますが、ここは江戸時代から女性が利用した生活路。「ひまい」にはひっそりと隠れてものを洗ったという意味もあるようです。

木造3階建ての建物に出ました。元は木本の迎賓館として使われ、大広間があり、かつては結婚式の披露宴会場にも利用されたようです。瑞雲寺の前を過ぎると、紀州徳川家の本藩公領地として置かれた**「奥熊野代官所跡」**。門前にあった老松の切り株のみ残されています。

木本小学校の裏手を進み、熊野市役所の通りに出ると、「西書店」、JR「熊野市」駅へ戻りました。

慶長時代の町割りや、商家の建物が残された木本では、タイムスリップしたような気分が味わえます。

問 熊野市観光公社
TEL 0597-89-0100

笛吹橋

“ひまい道”

木造3階建ての邸宅

「奥熊野代官所跡」

木本神社